

## 男子 歓喜の初優勝 観客魅了 専大ショータイム 全日本学生バスケット



初優勝を飾り、氣勢を上げるメンバー



目にして初の栄冠をつかんだ。  
新関光一監督は「個性豊かなチームを4年次生が良くまとめてくれたことにとっても感謝している」と気持ちを語った。  
今大会で見事優勝を決めた専大。この栄冠を機に更なる進化を見せてくれるだろう。

(井上 寸子・文1)

[12月15日/ニュース専修12面]

男子の全日本学生バスケットボール選手権が11月23日から12月1日まで、代々木第2体育館ほかで行われ、個人技にさえを見せた専大が見事、念願の初優勝を果たし、学生日本一に輝いた。

最優秀選手賞にはポイントガードとして活躍した青木康平(商4・福岡大大濠高)が選ばれた。

初戦の東海大戦は、3Pシュートに苦しめられ、前半はシーソーゲームとなったが、後半にペースをつかむとリードを広げ、81-72で勝利を収めた。その後は、近大戦、中大戦をワンゴール差と、苦しみながらも僅差で勝ち進み、決勝リーグへとコマを進めた。

決勝リーグ初戦、青学大戦は、攻守に精彩を欠き70-73で敗れたものの、最大の難関である日体大には本来のリズムを取り戻し80-74で勝利。そして最終戦では、110-54と攻守に早大を圧倒して勝利を収め、創部57年

## アメフトのだいご味を満喫 グリーンマシーン善戦及ばず クラッシュボウル準優勝



決勝開始前に氣勢をあげるグリーンマシーン(撮影・奥原佑城)

アメリカンフットボール関東大学選手権の準決勝・決勝(クラッシュボウル)が行われ、ここまで全勝で勝ち進んできたグリーンマシーンは、決勝で早大に敗れ、惜しくも準優勝。11年ぶりの関東制覇(甲子園ボウル出場)はならなかった。スタンドで観戦したOBは「良くやった。アメフトのだいご味を満喫した」と話していた。

【準決勝・明大戦=11/23、駒沢

### 陸上競技場】

序盤、好調のDF陣は相手の前進を許さない。なかなか勢いに乗れなかったOF陣も、久野孝弘(法4・花咲徳栄高)のロングパスを尾崎雄樹(経営3・箕面自由学園高)がキャッチ、TDを成功させ先制点を奪う。終盤に相手OFにTDされ、試合は振り出しに。延長戦かと思われた終了3秒前、グリーンマシーンは相手陣35ヤード、FGを鹿島弘道(経営2・浦和学院高)が決め、10-7で接戦をものにした。

### 【決勝・早大戦=12/1、さいたまスーパーアリーナ】

OF・DFともに調子が上がらず、先制点を奪われ、その後も追加点を許す。久野のパスからTDを成功させ、10-21と何とか喰らいつく。後半開始早々に、尾崎がTDを決め、これで流れをつかむと思われたが、相手OF陣に翻弄され17-45で惜敗。平野恭雄監督は「実力が点差ほど違うとは思わない。勢い負けした」と語った。

(稲田礼子・法1)

〔12月15日/ニュース専修12面〕

## 新春の箱根路に健脚を競う 母校の名誉と伝統をタスキでつなぐ 箱根駅伝1月2日号砲

新春恒例の風物詩、箱根駅伝(東京箱根間往復駅伝競走)がやってくる。79回の歴史を刻む箱根駅伝は、1区間20キロあまり、東京・大手町から箱根・芦ノ湖までの往路107.2キロ、復路109.2キロの長丁場を各校10人でタスキをつなぐ。今回も数々の名勝負が期待され、大観衆を沸かせてくれそうだ。

専大は、激戦の予選会を突破し、2年連続60回目の出場。箱根を照準に少しずつ調子を上げており、11月30日の記録会では、3人が自己ベストを更新、数人が今季最高タイムを記録。現在メンバーは最後の走り込みを行っており、23日からは伊勢原セミナーハウスで最終調整合宿を行う。

高尾信昭監督は「結果を気にせず、のびのびと走ってほしい」と話し、福島啓介主将は「本大会では見せ場を作りたい。シード権を獲って後輩達への置き土産としたい」と意気込みは十分だ。

12月10日には16人のエントリーメンバーが発表され、29日には区間エントリーも決定する。

昨年のリベンジを果たすことができるのか。注目が集まる中、来年1月2日、午前8時にスタートする。

(染谷 智子・文1)

[12月15日/ニュース専修12面]